

人体構造機能学

[講義] 第1学年 後期 必修 2単位

《担当者名》濱田 淳一 jun1hamada@hoku-i-ryo-u.ac.jp

【概要】

人体構造機能学、
と合わせて、解剖・生理学の知識と考え方を会得し、人体の構造と機能の恒常性を維持する機構の巧妙さを学ぶ。このシリーズの講義は、今後開講される病理学、病態学、看護学などを習得する上で基礎となるものである。

【学修目標】

人体構造機能学では、運動機能調節と筋収縮、体温調節、内分泌腺と生殖器の構造および機能、成長と老化を正しく理解し、人の生きるしくみにどのように関わっているのか説明できるようになることを目標とする。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	代謝と運動1	体温調節機構について理解する。	濱田
2	代謝と運動2	概日リズムと睡眠について理解する。	濱田
3	代謝と運動3	体液の調節機構、特に浸透圧調節系と容量調節系について理解する。	濱田
4	代謝と運動4	電解質の調節機構とpHの調節機構を理解する。	濱田
5	内分泌1	内分泌系による生体の恒常性の維持機構を理解する。	濱田
6	内分泌2	視床下部・下垂体の構造と産生・分泌されるホルモンについて理解する。	濱田
7	内分泌3	甲状腺・副甲状腺・膵臓・副腎の構造と産生・分泌されるホルモンについて理解する。	濱田
8	内分泌4	消化管・腎臓・心臓・脂肪組織などの構造と産生・分泌されるホルモンについて理解する。	濱田
9	内分泌5	生殖器・胎盤から産生・分泌されるホルモンについて理解する。	濱田
10	生殖器1	男性生殖器の構造と機能について理解する。	濱田
11	生殖器2	女性生殖器の構造と機能について理解する。	濱田
12	発生1	配偶子・受精・着床、および初期発生について理解する。	濱田
13	発生2	生殖腺の発生と分化について理解する。	濱田
14	発生3	消化器系・呼吸器系臓器の発生について理解する。	濱田
15	老化	細胞および臓器(器官)の老化について理解する。	濱田

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部(研究科)、学環、学校の授業実施方針による

【評価方法】

定期試験(筆記試験)100%

【教科書】

系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学：人体の構造と機能(1)、坂井建雄・岡田隆夫・宇賀貴紀共著 医学書院(デジタル教科書)

【参考書】

からだが見える(メディックメディア)

白澤信行(編著)Qシリーズ新発生学、日本医事新報社

【備考】

Google Classroomを利用して学習資料などを提示する。授業ごとに小テストをGoogle Formを用いて実施するとともに出席状況を管理する。

【学修の準備】

- ・ 次回の授業範囲を教科書で熟読した上で疑問点を整理しておくこと (30分)。
- ・ 講義終了後は、配布プリントを見直すとともに復習問題がある場合は次回までに解いておくこと (30分)。

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

DP2：看護専門職に必要な知識・技術を修得し、健康や生活に関する問題に対して、適切かつ柔軟に判断し解決できる学術的・実践的能力を身につけている。

【その他】

この科目は主要授業科目に設定している